

中日ニュース

シネスコ版

中日新聞ニュースNo.146 夏エクス - 広島 - 140x 本編トップへ追加

高知新聞ニュースNo.914

新愛媛新聞ニュースNo.143

No. 480 38.3.29

本編同じ

一、お墓考現学

— 広島、大阪、東京

墓は世につれ、世は墓につれ、だが今も昔も変わらないのはお彼岸の墓参りでしょう。先祖への信心などというウェットな言葉の流れない当世でも、お彼岸だけはべつのようにです。お墓は時の流れを石にきざみます。それは軍人墓地に、ポストのお墓に、また勝負師の墓石にと、時の種々相をきざみこんできました。

その墓地も昨今では娑婆なみの土地不足。オリンピック道路でげずられ、住宅難といつては廻りかえされるありさま、仏さまもあの世でこの世の無常をなげくばかりです。

このような行き場所を失った仏さま目あてにお墓の分譲やという新商売まで現われ、あの世にいった人からもがめつくいたたこうというもの。住宅難は生身の人間さまにもつれないもの、墓も世につれ、世も墓につれといったところでしょうか。

特報

愛大生遺体薬師沢で発見

一、痛恨の分岐点

— 捜索隊同行記

愛知大学山岳部パーティー十三名が、吹雪の薬師岳に消息を絶つてから八十日。荒れ狂う厳冬の薬師は再度にわたる捜索をはばみ、五月の雪どけまで遺体の発見は絶望とされていました。

だが三月中旬、名大山岳部が薬師への縦走を開始すると、中部日本新聞社では、名大パーティーと呼応して空からパトロールを始めました。

そして三月二十三日、中日機「はやたか」は太郎小屋上空で、名大パーティーの合図をキック。消息を絶つて八十日、ついに五つの遺体が見つかったのです。

若き十三の生命を奪った巨大な薬師の全貌。沈黙のうちに突如としてキバをむくブリザード。収容隊は十三人の辿ったコースを一步一步ラッセルしながらすすみ、十三人の迷いこんだ東南尾根の三角点、見失った分岐点を探しながらこの薬師沢をさまよったのでしょうか。

そして稜線直下四百メートル、五つの遺体は抱きあうように横たわっていたのです。

626x

412x

264x